

1-6 大規模地滑りにより国道が消失！

1. 立場と仕事

地方建設局(整備局)に入り 35 年目、これまで道路に係る現場経験を様々な場所で積み、当時、国道工事事務所長として、所管する国道の整備、管理の統括責任者の任にあった。

2. 遭遇した事態

日本に台風が 10 個も上陸し、全国各地に大きな被害をもたらした年のことだった。10 月初旬、台風による異常降雨により事務所が管理する国道で大規模な地滑り災害が発生し、国道の 2 車線が約 200m に渡って消失する事態に遭遇した。

17 時頃に、被災地で営業中の飲食店前の舗装に亀裂が発見され、17 時 20 分から 17 時 40 分頃に路面に段差が生じた。それから斜面が滑動を始め翌日の未明に土塊が徐々に滑落し並行する河川まで達し、国道の 2 車線が 200m に渡って消失した。

この国道はこの地方の大幹線道路であり、その機能の回復が喫緊の課題であった。しかし、地滑りの発生メカニズムがよく分からない中でこのことで、とにかく沿線住民に安心してもらうことが何より大切なことだった。

自身としてもこのような大規模地滑りを経験したこともなく、現地の総括責任者として対応策を模索しながらトップマネジメントに取り組んだ。

3. 対応内容とその結果

このような災害発生は全く想定外の事態だった。何をどのような手順で対応すべきか戸惑ったが、この道路の果たす役割を考えれば第一に為すべきことは道路交通機能の確保だと考えた。第一に迂回路の設定。第二は仮復旧による物流、人流の交通機能の回復。そして、第三が本復旧に向け大規模地滑りの発生要因、発生メカニズム等の分析だと。

取り組み体制については、県、市の関係者を含む対策本部を事務所に設置し、現場の情報収集や迂回路、仮復旧の施工状況等の進行を一元管理した。その下で、混乱の起こらないように地元住民をはじめマスコミへの情報提供に当たった。

その結果、迂回路については、関係機関と調整し県道・市道を活用する迂回路を被災後 7 日目に確保した。仮復旧（人流・物流の機能回復）については、被災箇所には鋼矢板による土止め工法と応急組み立て橋梁を活用して 60 日で 2 車線を確保した。発生要因、発生のメカニズム等の分析については、学識者や各方面の専門家による技術検討委員会を設置し取り組んだ。この委員会は正確な情報を逐次提供するためにマスコミや地元住民にも情報公開し開催した。そして、委員会での検討を踏まえ、本復旧は地滑り地形に最も影響の少ない橋梁で被災箇所を通過する案に決定した。

災害対応の総括責任者としては、被災箇所の早期復旧と合わせて、周辺道路の安全確保、二次災害の防止等も重要な課題だった。このため、それまでの災害対応マニュアルを見直し、関係機関との連携強化、連絡体制の一元化を図り、事務所の全職員に周知徹底し、それぞれ責任者を定めて管轄国道の緊急点検、パトロール等を実施した。